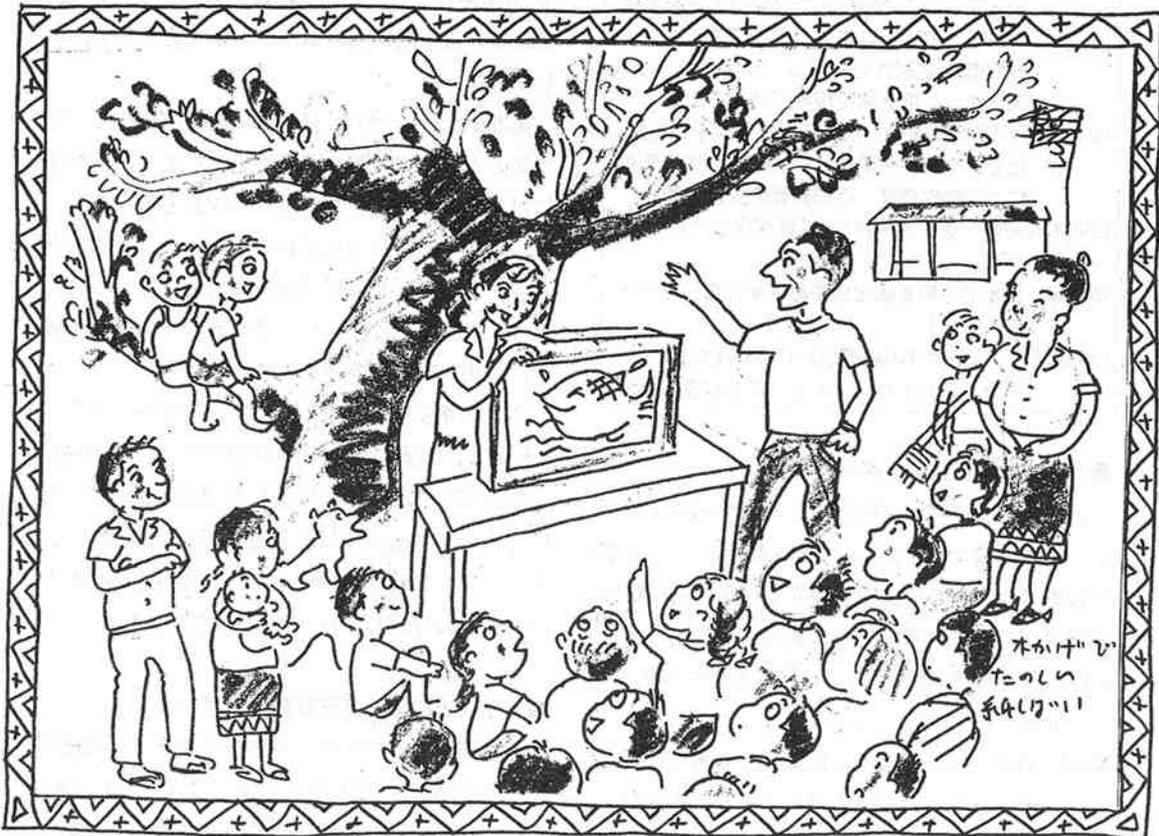


# ラオスのこども通信 11号

(1998年5月発行)

## 1997年報告書



イラスト：尾崎曜子さん(以降のページも)

## ラオスの紙芝居、はじまりはじまり

ラオスに専門家を派遣し、95年から年1回、3年にわたって行ってきた紙芝居づくりセミナー。その中から生まれた作品が、日本で初めて出版されました。

### ■ラオスと紙芝居

みなさんは子どものころ、紙芝居を見たことがありますか。日本では、もうノスタルジーの世界のものと感じる方も少なくないのでは。ところがどっこい、今もちゃんと出版されていて、図書館などでは貸出もされています。そしてラオスでは、紙芝居が元気いっぱい、育ち盛りなのです。

1993年に日本の紙芝居が紹介されて以来、幼

稚園や小学校の先生たちが読み手となって、紙芝居はだんだんとラオスに広がっていきました。大勢でいっしょに楽しむことができる紙芝居は、本が足りないラオスの現状にかなっていたばかりでなく、口承文化の伝統がある風土にも合っていたようです。子どもたちは、かわりばんこに演じる側になったり、見る側になったりして、同じ紙芝居を何回も何回も楽しんでます。

### ＜ラオス紙芝居年表＞

- 1993年：「みつめ遊戯団」が大型紙芝居「かくやひめ」を上演。「遊戯団」はASPBとバントマイムアーティスト、音楽家、大学生、ラオス情報文化省の担当官、現地の俳優らのグループ。ラオスの村々で公演ツアーを実施。同じ年、ACCU(ユネスコアジア文化センター)が紙芝居制作を支援し、95年にはラオス人が作った紙芝居を現地で初めて出版。
- 1994年：ASPBの支援で、情報文化省が「子ども文化センター」を開設。ASPBは専門家派遣による情操教育、造形教育の支援を開始。
- 1995年～97年：第1回～第3回「紙芝居づくりセミナー」
- 1997年：日本での紙芝居出版をめざすプロジェクトがスタート。
- 1998年4月：『ラオスの紙芝居』日本初出版。  
「ラオスお正月パーティ」でお披露目上演。

#### ■ラオスの情操教育、造形教育

ところでラオスの学校では、音楽や図画工作といった情操教育が、ほとんど行われず、子どもたちは感じたことを自由に表現する技術を身に付ける機会がありません。そんな教育状況に対し、1994年、会の支援により「子ども文化センター Children's Cultural Center=CCC」が開設され、絵画、演劇、伝統音楽、伝統舞踊、読書などを通して、子どもたちの自己表現の力を育てる活動が始まりました。『ラオスのこども通信』でも何度かお伝えしたように、CCCの活動の充実をめざして、会では日本人の専門家を派遣してセミナーを開催してきました。95～97年には絵画造形の専門家を派遣し、子どもたちばかりでなく、教育関係者を対象とした指導も実施。そのひとつに「紙芝居づくりセミナー」がありました。

#### ■紙芝居づくりセミナー

会は「紙芝居づくりセミナー」を通して、造形教育の分野における指導者育成をめざしました。

第1回セミナーは、やべみつのりさんの紙芝居作品「できたなあーんだ？」と「さんかくふたつ」のアイデアを使って、全員で合作に挑戦。できあがった紙芝居を近所の子どもたちの前で実演

しました。ラオスの人は演じるのも上手で、観客の子どもたちと一体となって盛り上がり、会場はすごい熱気に包まれました。このとき、合作紙芝居を一人づつ持って帰れるように、謄写版(ガリ版)で印刷しました。謄写版は、現地で普及活動をしている曹洞宗国際ボランティア会からお借りしました。

第2回セミナーからは16もの作品が生まれ、ラオスの人たちの大きな可能性を感じました。なかにはラオスの民話をもとにした作品もありました。ラオスには昔から伝わる民話や口承説話がたくさんあり、いわば紙芝居の素材の宝庫。それがラオスに紙芝居が根付いてきた背景でもあり、同時に将来への可能性でもあるのです。

97年の第3回セミナーでは、「トーシャパン」(ラオスでも謄写版はこう呼ばれています)を使った紙芝居づくりも試みました。参加者のひとり、ブンルートさんの作品を全員で3色刷りしたところ、とても素敵な出来映えで、この春出版された『さかなのおんがえし』のもとになりました。

#### ■ラオス人による造形教育をめざして

紙芝居づくりセミナーや造形セミナーの評価を話し合う中で、「これまでのように、いつも日本人専門家を短期的に派遣するだけでは、ラオスの社会になかなか広がっていかないのではないのか」、「最終的にはラオス人が自発的に造形教育を担っていくべきではないのか」といった意見が、ラオス側、日本側双方から出されました。会では、図画工作や造形教育の分野で、専門的なラオス人指導者を積極的に育成していくための、新しい、長期的なプロジェクトを企画しました。

#### ■紙芝居作家の指導、そして出版へ

プロジェクトは、1年間かけてより専門的に紙芝居づくりの指導を行い、最終的に日本で出版しようというもの。紙芝居は、作者と演じる人、それに見る人がいて初めて成り立ちます。物語や絵の制作だけでなく、子どもたちの心をつかむ表現



やいきいきとしたコミュニケーションが求められるので、造形教育の指導者を育成していく上で、うってつけの題材と言えるでしょう。

ラオス人作家の選出と指導は、やべみつのりさんと絵本作家の長野ヒデ子さん。お二人には出版に際しての監修もお願いしました。出版は汐文社が引き受けてくださることになりました。

97年秋、会の呼びかけに、第3回紙芝居づくりセミナー受講者の有志から14点もの作品が寄せられました。どれも素敵な作品ばかりで選ぶのにとっても苦労しましたが、最終的にブンルートさん、ポアワンさん、トンミーさんの作品を出版へ向けてブラッシュアップしていくことになりました。

数回におよぶ指導の内容は、物語の創作、絵画としての表現方法・技法、画材の使用方法など、多岐にわたりました。お二人の熱心な指導を通して、作品としての出来だけではなく、大勢の子どもたちとふれあうメディアとしての紙芝居の意義も伝えられたのではないかと思います。

#### ■がんばれ！ラオスの紙芝居

作品の出版は、ラオスの作者たちの自信や励みになります。また、芸術家や作家という職業がまだ社会的に確立されていないラオスでは、作者たちの地位の認知にもつながるのです。一方、日本で販売、実演されることで、日本とラオスの人々の交流が、もっと広がっていけば、と思います。

もちろん、ラオスの紙芝居は出版されたものが全てではありません。紙芝居づくりセミナーの経験の積み重ねがあり、出版はされていないけれど、大勢の作者たちの素晴らしい作品があります。目を輝かせて集まってくる子どもたち、そして、これからも豊かな物語や絵を生み続けるに違いない、ラオスという風土。紙芝居の向こうに広がる「ラオス」を、日本のみなさんに感じてもらえたら、それは今回の出版の大きな成果です。

造形教育の指導者育成は、次の段階へ。今回、紙芝居制作の訓練を受けた人たちがリーダーとなって指導者育成セミナーを開いたり、子どもたちを指導し、教育の成果を拡げる場をつくったり。将来的には、造形教育の指導者としての自立まで、継続的に支援していきたいと考えています。

ご協力くださったやべみつのりさん、長野ヒデ子さん、汐文社の政門一芳さん、お正月パーティーで実演してくださった中平順子さん、東の宮美智子さん、鶴水まひるさん、ありがとうございました。ガリ版ネットワークの志村章子さんには、ガリ版とトーシャバンを使って絵を描き紙芝居を印刷するための様々なアドバイスとともに、セミナーのためにボールペン原紙300枚と修正液などの材料をいただき、さらに『ガリ版展98』での紙芝居の展示と、今後の活動のためにボールペン原紙を100枚ご寄付いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。 (編集部)

やべみつのりさんと長野ヒデ子さんのお力と熱意なくして、ラオスの紙芝居は考えられません。出版にあたり、お二人から心のこもったメッセージをいただきました。

## ラオスの紙芝居

長野ヒデ子

一昨年、ASPB紙芝居づくりセミナー講師として、ラオスを訪問しました。何てのどかな、ゆったりとした時間が流れ、私たちがすでに失ってしまった大事なものが息づいており、人々も自然も生き生きと輝いていることに感動しました。当然、セミナーの参加者ののびのびとした作品にも目をみはる思いでした。創作とは、やはり感じる心から生まれるのだと、あらためて思わされるほどでした。彼らの作品はどこか野性的でありながら、優しくしなやかで、包みこんでくれる豊かさがあります。

ところが、その個性のすばらしさに気づいていなくて、あこがれるのはメディア化された作品をお手本にまねて描こうとするのです。そうでなく、わきあがるように創作した作品はすばらしい。このオーラを、日本の子どもたちにも感じてもらいたい。私たちも学びたい。そのことがラオスの方々のこれからの作品を生み出すエネルギーになると信じて、出版にこぎつけました。

日本には、本や紙芝居が山のようにあっても、子どもたちの目は、ラオスの子どもたちのように輝いていません。そのことをつねに大事に考えながら、ラオスの方々とともに、うれしいこといっぱいにしてゆけたらいいなあ。

\* \*

## かみしばいのくに

紙芝居づくりセミナーに参加してくださったみなさまへ

やべみつのり

95年3月、ASPBの企画した専門家派遣セミナーの一員として、みなさんの国ラオスを初めて訪問しました。97年まで3回の紙芝居づくりセミナーは、みなさんのエネルギーあふれたセミナーでした。

紙芝居は、日本の伝統の中から生まれた庶民文化財のひとつです。何枚かの紙に描かれた絵を、

演じることで成立する素朴な形式です。その紙芝居は、口承文化の伝統のある、みなさんの国に、とても似合っていると思いました。みなさんは、自作の紙芝居を一人一人のパフォーマンスで生き生きと演じていましたね。それをすてきな表情で見入っている子どもたち。ああ、ここは「かみしばいのくに」だ、と思いました。

今年、みなさんの紙芝居の中から、3つの作品が日本で初出版されました。これからも素朴なみなさんの暮らしの中から、すばらしい、ラオスならではの紙芝居が生まれてくることを。日本で生まれラオスの地で育った紙芝居を通して、私たちとラオスのみなさんとの交流が広がっていくことを心から期待し、祈ります。またお会いしましょう。 コブチャイライライ

## ラオスへ紙芝居を送ろう！

『ラオスの紙芝居』は、汐文社の『アジアの紙芝居シリーズ』のひとつ。ブンルート作『さかなのおんがえし』、ポアワン作『まるちゃんのともし』、トンミー作『いぼがえるとにわとり』の3巻1組で、日本語とラオス語の両方で書かれています。この紙芝居をラオスの子どもたちに届けるには、2つの方法があります。

●指定寄付：1口(6,000円)で「ラオスの紙芝居」1セット(3巻1組)をラオスに送ることができます。前号と一っしょにお送りした「寄付のいろいろ」で募集を始めています。お申し込みは郵便振替で。郵便振替 [00100-1-125420ラオスの子供に絵本を送る会]

●購入申込：会では『ラオスの紙芝居』を1セット頒価6,000円(送料別)で日本のみなさんに直接、販売。その収益をラオスへ紙芝居を送る資金とします。今号と同封の専用申込用紙をご利用ください(購入の場合は収益全体から配分するので、1セット買うと1セット送れる、というわけではありません)。

日本で紙芝居を楽しんでいただくことで、ラオスやラオスの子どもたちへの関心が広がり、さらに交流につながっていけば、と思っています。ご寄付、お申し込み、心よりお待ちしております。

# 1997年 活動報告

97年はタイを震源とする経済危機の年でした。タイバツ経済圏に組み込まれているラオスも大きなインフレの波にもまれ、年初、\$1=940Kのレートが年末には2050Kへ大きく下落。生活物資の多くを輸入に頼るラオスの人々の生活に困難をもたらしました。

## <出版プロジェクト>

97年、ラオスでは20タイトル近くの児童書が出版されています。ほとんどがNGOによるとはいえ、好ましい傾向でしょう。しかし、会の出版プロジェクトは資金難から低調に終わりました。

### ●『絵とき辞書』

ラオス初の子ども用語辞典『絵とき辞書』は、全国約8,800の小中学校に配布することをめざしています。初版4,500冊、第二版2,500冊に続き、第三版3,000冊を東京国際交流財団などのご支援により出版しました。一部改訂し、ハードカバーに。編集者のドゥアンドゥアンさん、国立図書館員、会スタッフが、教員に辞書の使い方を説明するセミナーを行い、4月に、チャンパサック県、ルアンナムター県、ボンサリー県で配布しました。



### ●古典出版・再版 創作絵本出版

出版準備が進んでいた作品『不思議な木』は、原稿は完成したのですが、会の出版コーディネーターやスタッフがチェックしたところ、空想の木と現実の木の話が混在し、子どもが混乱するだろうと書き直しに。出版延期としました。キヤノン株式会社のご支援が決定していたので、他の作品の『タオカムとつばめ』を、98年の出版とするように変更しました。

### ●『文字・数字絵本』出版

95年春の「絵本制作セミナー」をもとに、絵本作家わかやまけんさんのご指導を得て作られた、ラオス語アルファベットの『文字絵本』と果物の絵の『数字絵本』3部作5,000セットが、1月バンコクで印刷が完了。2月からラオスで配布しました。評価は高く、「ラオスで作られた子ども用図書で最高の質」との賞賛を受けました。共同制作をしたラオスの8名の作家にとっても、外国でも通用する質で、自信につながったことでしょう。一方、印刷の質を上げるより数を増やすべきとの指摘も受けました。

### ●紙芝居出版

ブンルート作『さかなのおんがえし』、ポアワン作『まるちゃんのともし』、トンミー作『いぼがえるとにわとり』の3作品を日本での出版・販売を決定。ラオスで配布するため、日本語、ラオス語併記とすることで制作を進めました。

## <移動図書館・図書袋プロジェクト>

本の流通システムがないラオス。2000年までにラオス全国の小学校に「移動図書館」を届ける国家プロジェクトの支援を行っています。

97年は、約130冊の本を詰めた「移動図書館」65箱を郵政省ボランティア貯金のご支援で、また、60冊の本を詰めて手軽に運搬できる「図書袋」120袋を国際開発救済財団のご支援により、製作・配布しました。

図書館は1校につき1箱をルアンパバーン県に30箱、ヴィエンチャン県に35箱を、図書袋は1校につき2袋セット、ヴィエンチャン県の小学校に98年3月の配布としました。いずれも、図書の貸し出し方法の伝達、読書啓蒙のためのセミナーを開催しながら配布を実施。また、過去に配布した学校への図書補充も実行。今年は、物価の上昇で入れられる本の種類も数も減りました。

図書館(袋)の利用状況を調査すると、よく利用されている学校では、「100冊程度では、すぐに読み終えてしまう。補充をして欲しい」といったリクエストがよく聞かれます。

ラオス語図書の出版配布事業は、明らかにラオ



スの人々の中に変化をもたらしました。子どもが本の世界に没頭している姿を見て、親たちは文字文化の大切さを感じ取り始めました。地方から首都に出てきた親たちが、子どものために、土産物屋に並んだ本を買い求める姿がわずかですが見られるようになりました。本を書こうと考える人も増えています。

#### <子ども文化センター(CCC)>

ラオスの公教育は、「写し習う」ことが中心。自分が見て感じたままに表現する訓練は、あまり行われていません。音楽、図画工作などは、ほとんど行われておらず、指導者も育てていません。「自己表現」の楽しさを知り、能動的な子どもを育てる施設「子ども文化センター」活動も4年目。ヴィエンチャン、ポリカムサイ、サヤプリに続き、ルアンパバンでの開設が、住友財団のご支援を得て、97年に着手しました。ユネスコの世界遺産に選ばれた古都ルアンパバーンは観光地で、外国人観光客の増加とともに、青少年への悪影響が心配されたことが開設の気運を高めました。かつては放送局で現在は空家となっている市中心部の好立地にある建物の利用が決定しました。

これらCCCの運営には郵政省ボランティア貯金のご支援を受けています。

#### ●ヴィエンチャン子ども文化センター

平日は主に学校の昼休みや放課後に子どもたちが図書室を利用。土日は、絵画、編物、ペーパーフラワー、創作おもちゃ、音楽、劇、ダンス、ゲームなどの特別プログラムを行っています。12月は、各CCCで描かれた絵をとりまとめ、20点

を「1998インド国際児童絵画コンクール」に応募しました。

ヴィエンチャンCCCは、利用者数が1か月にのべ約500人程度と、思わしくありません。東京からもスタッフを数回派遣し、カウンターパートと改善策の協議を重ねてきましたが、結局、現在の施設を98年春に閉鎖し、移転を決定しました。情報文化省の同じ管理者が携わる類似の大型施設が近接、競合していることや、その担当者のCCCの運営に熱意が感じられないことによる結論です。別の場所で、別のカウンターパートとCCCを運営する方向で検討に入りました。

#### ●ポリカムサイ子ども文化センター

8月、懸案の図書室がCCCに隣接して完成。40メートルもある緑豊かな大木を中心に3棟を配置。年齢別に分けることができ、図書も充実しました。その結果1日平均150人の子どもが利用しています。火曜から木曜は図書室を中心に、読みきかせや紙芝居なども実施。月曜と金曜は休館。土・日は絵画、木彫り、伝統楽器、伝統舞踊、紙芝居、紙や米を使った造形などのプログラムが行われています。施設の運営は株式会社ミクプランニングより支援をいただいています。

10～12月は、子どもと指導員がヴィエンチャンでのセミナーに参加。バンコクの「国際子どもフェスティバル」に子どもが1名参加しました。

#### ●サヤプリ子ども文化センター

熱意のあるスタッフによって安定した活動を続けています。毎日約80人の子どもたちが訪れ、10～12月に、のべ3,945人が利用し、図書を借りた子どもは1,650人との報告を受けています。読み聞かせ、お絵かき、読書、伝統音楽、伝統舞踊、歌、ダンス、ランゲージゲームなどのプログラムを土日を中心に行っています。

#### <日本人専門家派遣 ボランティア参加>

様々な専門家の方が、CCCなどで、子どもや先生を対象とした活動に加わっていただきました。受け入れ態勢、資金などは不十分でしたが、多くの方の努力により、成果を生みました。

#### ●あさぬまちずこさん(パントマイマー)

1月10日-4月25日

CCCや小学校を巡回し、子どものための身体表現教室を開催。定員40名のところ400人が出迎

えたところもあり、子どもたちに大好評でした。若手指導者の育成にもあたってくれました。

●安井清子さん（CCC活動、図書館専門家）

1月21日-3月10日

ヴィエンチャンCCCで、読み聞かせや現地スタッフの指導のほか、問題点の指摘や運営への提言などをしてもらいました。

●やべみつのりさん（紙芝居・造形作家）

2月20日-3月17日

95年、96年に続き3度目で、「子どものための造形教室」では、より現地の状況に則した「身近な材料での造形、自由な絵画表現」のプログラムが組まれました。多くの子どもと教員にとって、初めてながら、豊かな色彩や大胆な構図など、「何でも楽しめる」ことを発見することができました。

また「紙芝居制作セミナー」を開催。「楽しさ」の共有と「自己表現」のともなうメディアである「紙芝居」づくりのリーダーを育成することが今回の目的でした。受講者は熱心かつ才能も豊かで、楽しい作品が出来上がり、日本での出版を決定。やべみつのりさんと長野ヒデ子さんに添削指導をしていただくことになりました。

長野ヒデ子さんはボランティア講師として参加してくださった絵本作家です。面川裕香さんが通訳として、亀山太郎さん、大竹浩介さんが助手として参加してくれました。

●尾崎曜子さん 中村有希さん（画家、絵本作家）

3月16日-3月28日

ヴィエンチャン市を中心に、小学校中学校で絵画、造形教室を開催。尾崎さんは2回目の参加で、今回はひとつの学校を2度回るプログラムに。予算不足から、極力現地調達の方針で、葉や草を使った絵、布地を使った工作など工夫をこらしました。各校とも参加希望者が多すぎ、大混乱の気味、絵画造形教室に対する要望の強さが身にしみて分かる機会でした。この教室には中里美和子さん、土屋夏美さん、あさぬまちずこさんが協力してくれました。

今年の専門家派遣セミナーは、現地責任者の不在、準備・予算不足など、講師の先生にはずいぶんご迷惑をおかけしましたが、内容の濃いセミナーとなり、感謝にたえません。

●島中まりこさん（保母）8月8日-8月30日

保母の経験をもつ島中さんは、ボランティアと

してヴィエンチャンCCCで、子どもたちと「遊んで」くれました。様々に工夫された「遊び」はCCCスタッフにとっても、いい刺激になりました。保母さんの派遣は、今後とも優先順位が高いと認識を新たにしました。

<子ども文庫プロジェクト>

移動図書箱(袋)が地方中心なのに対し、都市部の大規模校での読書推進をめざす<子ども文庫プロジェクト>。空き教室に本と本棚を設け、先生に図書の貸出し方法を、生徒には読書啓蒙のセミナーを開き、運営を任せます。このプロジェクトは、外務省NGO事業補助金からの支援を受けています。97年は以下の6校を整備支援しました。

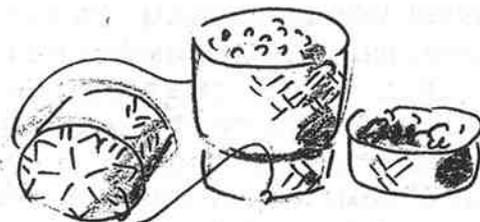
- 1.ノンテン小学校(ヴィエンチャン特別市)
- 2.タゴーン高校(ヴィエンチャン特別市)
- 3.チャムパスック高校(チャムパスック県)
- 4.ドンタラート高校(チャムパスック県)
- 5.ポンサヴァン小学校(ヴィエンチャン県)
- 6.ソーカム小学校(ヴィエンチャン特別市)

以上で、25校の学校図書室整備が完了しました。

各図書室にはラオス語・タイ語・日本語の図書、約130タイトル合計約200冊の他、図書の管理・補修用の文房具、絵を描く用具が整えられました。これらの図書室の開設で、2,000人の子どもと両親、村人が本を読む機会を得ました。

また、これまで開設した19か所の学校図書室とその本部である当会事務所内子ども文庫は、ラオス語・タイ語・日本語の図書約90タイトル、計200冊ほどの図書(年間合計)を補充しました。

高校には、要望の多い英語の辞書や理数科の副教材となる図書を重点的に補充。これらはラオスでは出版されておらず、タイから購入しました。ほとんどの生徒がタイ語を読みこなすため、高校生用の副教材は翻訳なしに利用しています。



もち米のあんぱんとうと  
やさしいあんぱん



## 会へ事務所に談話を たのびたい私たち

現在ラオスで入手できる子ども用図書が少ないことから、日本語やタイ語の子ども向け絵本も購入しました。ラオス語の翻訳文コピーを貼り付け、小学校を中心に配布しました。

各学校で図書室担当の先生を決め、活動の報告や補充図書の希望などを出してもらっています。7・8月の夏休み中も担当の先生に手当を支給し、週1日～3日ほど図書室を開くことができました。子どもだけでなく、大人も利用できます。

97年はヴィエンチャン、ルアンパバン、サヤブりで、各学校図書室担当教員を集め、図書室利用促進ワークショップを実施。ラオス国立図書館員や作家、当会現地スタッフ、文庫担当責任者などが講師となり、活動報告などを行いました。

「大人のお話をとおとなしく聞いているだけだった子どもが、他の子どもに読み聞かせや紙芝居をするようになるなど、自己表現ができるようになった」「本に無関心だった親や村人の理解も徐々に得られるようになり、大人も図書室を利用している」などといった成果があがっています。親や村人と協力し、本棚を作成したり、本を補修したり、貸し出し方法を改善するなど、自主的な活動につながる学校も登場。他校の報告から刺激を受けた人も少なくないようです。また、校長の理解がなく、図書など備品紛失予防のためとして図書室を短時間しか開けなかった学校には、会スタッフが出向き、校長に会って活動の理解を得られるようにしました。この結果、これまでに開設した図書室は全て運営を継続しています。これまで開設した全国27か所の図書室（事務所文庫も含む）合わせて、5,000人以上の子どもが登録しています。これらの成果を受け、会現地事務所には、ラオス全国30校から新たな学校図書室整備支援要請が寄せられています。

## ■会の運営

### 〈東京事務所〉

パソコンを日本財団より提供いただき、処理能力が向上。電子メールによって活動スタッフの連絡もスムーズになっています。

96年秋から活動してきた山崎佳子が10月で退職し、再び常勤スタッフなしの状態に。もう一人のスタッフ赤井朱子は現地事務所に年末から約2か月滞在し、現地スタッフの訓練、プロジェクト調査、調整に当たりました。赤井の活動に対して、98年から3年間の予定で、アユス（仏教国際協力ネットワーク）よりご支援が決定されました。これは非常に支援を受けにくい、経常経費（人件費）に対するもので、かつ長期に渡るという意味でも感謝に堪えません。

### ◆調査・調整・セミナー派遣

2月 チャンタソン セミナー通訳、調整

2月 森透 図書袋、図書箱利用状況調査

6月 森透 CCC運営状況調査 現地事務所調整

6月 野口朝夫 子ども文化センター運営状況調査

8月 チャンタソン スタディツアー引率 活動調整

8月 森透 スタディツアー引率

12月 赤井朱子 活動調整 プロジェクト調査

この他、プロジェクト視察団同行などの目的で、野口朝夫、チャンタソン、山崎佳子がラオスを訪問し、現地事務所との調整を行いました。

### ◆国内活動 イベント参加

#### ●ラオス正月パーティ「ピーマイラオ」

97年も東京ガス大田支社のご好意により、会場と調理室をお借りし、恒例の正月パーティ「ピーマイラオ」を行いました。参加者は料理などお手伝いのボランティアを含め、約100名でした。

#### ●ラオス語教室

昨年に続き、97年も5月10日から10回、ラオス語教室を開催しました。参加者は13名でした。

#### ●スタディツアー

初めての会主催のスタディツアーが、8月1日から10日間の日程で行われました。高校生から60歳代までの参加者18名で、ポリカムサイでのホームステイ、ルアンパバンでのパイラーンの村の訪問など、参加者それぞれに収穫があったツアーとすることができました。



## 1997年会計報告

(1997.1.1~1997.12.31)

収入の総額は予算額を上回り、昨年度実績よりも30%ほど大きくなっていますが、予算に計上していないスタディツアーの参加費が大きな割合を占めています。

様々な企業、財団からのご支援の増加、『通信10号』で寄付特集チラシにお応えいただいたことなどプロジェクト援助金は増加しました。一方、使途指定のない一般寄付は伸びませんでした。そのため、プロジェクト拡大に伴う一般事務経費は自己資金で補填しました。

支出は、出版プロジェクトで予算を達成できませんでした。資金が見つけれず古典出版ができなかったこと、創作絵本出版や紙芝居出版が予定より遅れ、年度を越してしまったことが主な原因です。子ども文化センターは、ヴィエンチャンとサブリの運営費は予算で計上した楽器購入が、資金難からできませんでした。しかしCCCプロジェクト全体としては、ポリカムサイの図書室建設やルアンパバーンの改修費が加わったため、昨年度実績の2倍以上の支出となりました。

事務所経費は、東京事務所の人件費が予算を大幅に上回りました。また広報費が、通信の発行部数が増したこととパンフレットの発行などが重なり大きな支出となっています。これらの増加分は、予算組の甘さに由来している面が大きいと思われます。現地事務所では、通信費、事務所移転に伴う水道光熱費などの維持費が増しており、圧縮の努力が必要です。

97年度は、建物の建設や改修事業が重なり、収入支出ともに大きな額が動くことになりました。支出総額は昨年度実績より35%程上回り、過去最高額に。収入総額も過去最高額ですが、支出額には及ばず、当期収支差額が大きなマイナスになりました。次期繰越金は過去5年で最低額で、来年度の運営に余裕がなくなっています。

(P10、11へ)

### <ヴィエンチャン事務所>

96年までの事務所責任者退職後、後任がなかなか見つからず(人材不足から、語学ができる人、経験を持つスタッフの給与は極めて高いなどの理由で、とりわけ対外活動で困難がありました。しかし残り3人のスタッフがこれまで以上にがんばり、日常活動は障害無く進みました。会計担当のポーケオはコンピューター処理の傍ら、責任者代理として走り回り、子ども文庫担当のバンオーンは増えた子どもたちをよくまとめていました。雑務担当であるカオは、子どもたちに紙芝居を聞かせたり、文庫の活動をよくカバーしてくれました。皆責任感が非常に高まり、会の人材が少しずつ育っていることを実感させられました。

96年秋、事務所を85坪というスペースの広い場所に移転したことによる活動の活発化がみられました。1階の子ども文庫は、いつも子どもたちがたむろし、スタッフのバンオーンが輪を作り、読み聞かせを行っています。大きな子どもが小さな子どもたちの面倒を見ている光景も、日常です。2階は広いスペースが確保できたことで、先生方を集めたセミナーが開催されました。これまでは外部でスペースを借りて行ってきた様々なセミナーや会合を事務所で行えるようになります。さらに、3つの個室が整備されたことにより、東京からのスタッフやボランティアの宿泊が可能となりました。年末には外務省の支援により、事務所の改修工事、家具整備が行われ、明るく、より清潔に、快適に活動ができるようになりました。

# 1997年度 ラオスの子供の絵本を送る会

# 収支計算書(1997.1.1~1997.12.31)

■前期より繰越	5,933,431 円	6,304,493 円
■収入の部	予算	決算
一般寄付 (のべ 603件)	5,000,000 円	3,987,972 円
プロジェクト援助金	16,000,000 円	
指定寄付 (個人)		748,672 円
助成金・指定寄付 (団体)		13,715,020 円
スタディツアー参加費		3,775,641 円
イベント収入	500,000 円	535,560 円
雑収入	500,000 円	134,053 円
本・絵はがき等売上		179,750 円
配布図書譲渡		296,357 円
使用済テレホンカード売却		52,630 円
収入合計	22,000,000 円	23,425,655 円

プロジェクト準備金	
摘要	
出雲大社	500,000 円
ラオスの会 相本真理	230,000 円
住友生命保険株式会社	140,910 円
ソロプチミスト出雲	100,000 円
豊島福祉基金	100,000 円
自治労町田市職員労働組合	100,000 円
郵政省ボランティア貯金	6,039,000 円
国際開発救済財団	1,920,000 円
住友財団	2,000,000 円
東京国際交流財団	1,000,000 円
外務省NGO事業補助金	900,000 円
日本財団	320,000 円
豊島福祉基金	100,000 円
株式会社ミクプランニング	1,000,000 円
キャノン株式会社	320,000 円
他	

パーティ参加費、コーヒー売上など  
レート計算差益、預金利息等

現地事務所扱い

■支出の部		
1. プロジェクト経費		
●絵本一冊運動		
<出版プロジェクト>		
絵とき辞書印刷費	1,980,000 円	1,130,805 円
辞書配布セミナー費	216,000 円	204,600 円
古典出版 図書再版	1,800,000 円	0 円
文字・数字絵本出版	1,200,000 円	1,051,772 円
創作絵本出版	1,800,000 円	0 円
紙芝居出版	1,080,000 円	0 円
出版プロジェクト 計	8,076,000 円	2,387,177 円
<移動図書箱 図書袋プロジェクト>		
移動図書箱製作費	936,000 円	760,500 円
図書袋製作費	864,000 円	962,241 円
配布セミナー費	360,000 円	138,384 円
フォローアップ費	120,000 円	0 円
補充用図書購入費	600,000 円	418,446 円
図書箱・袋プロジェクト 計	2,880,000 円	2,279,571 円
<統括管理>		
通信費	120,000 円	228,992 円
出版コーディネーター人件費	84,000 円	85,400 円
プロジェクトコーディネーター人件費	72,000 円	76,200 円
調査・調整派遣費	600,000 円	265,000 円
絵本1冊運動統括管理 計	876,000 円	655,592 円

第3版3000冊印刷費残額  
ボンサリー県・ルアンナムター県・チャンバサック県  
計15000冊残金支払い  
98年実施予定『夕オカムとつばめ』4,000冊  
98年日本で実施変更

箱製作費、箱詰め図書代 (129冊) 65箱  
袋製作費、袋詰め図書代 (約60冊) 120袋  
昨年度製作分 サヤプリ県1月実施  
98年シェンクワン県・チャンバサック県など  
過去配布済み図書箱・袋への補充

当プロジェクト該当分 (全通信費の25%)  
現地出版アドバイス 1名  
現地プロジェクト調整員 1名  
現地出張費 1名分 2月実施

●子ども文化センター (CCC) プロジェクト		
ヴィエンチャンCCC運営費	1,116,000 円	1,028,616 円
ボリカムサイCCC運営費	612,000 円	1,318,784 円
サヤプリCCC運営費	612,000 円	471,483 円
ボリカムサイCCC図書室建設費	2,700,000 円	2,721,733 円
サヤプリCCC改修費	960,000 円	597,500 円
専門家派遣セミナー開催	120,000 円	111,679 円
日本人専門家派遣費	840,000 円	1,285,168 円

スタッフ・指導員人件費、教材費、家賃など  
スタッフ・指導員人件費、教材費など  
スタッフ・指導員人件費、教材費など  
セミナー現地開催費、参加者日当など  
造形紙芝居 絵画 身体表現等専門

専門家セミナー調整員派遣費	300,000円	237,535円	通訳調整員 1名派遣 3月
CCC調整派遣費	300,000円	371,279円	現地出張2名 6月実施
ルアンパバーンCCC運営費	0円	55,178円	
ルアンパバーンCCC改修費	0円	1,690,000円	
通信費	120,000円	228,992円	当プロジェクト該当分(全通信費の25%)
子ども文化センター 計	7,680,000円	10,117,947円	

●子ども文庫プロジェクト

図書室整備改修費	360,000円	427,450円	事務所文庫改修費など
資機材設備費	72,000円	130,605円	机 椅子 本棚購入費
新規図書室用図書教材購	252,000円	413,475円	新規開設6ヶ所分
既図書室用 図書教材補	720,000円	880,770円	タイ語図書買付・翻訳経費含む
図書室利用セミナー開催	240,000円	8,066円	98年開催
子ども文庫家賃	115,200円	110,040円	事務所文庫スペース分
文庫管理人件費	144,000円	119,406円	文庫管理者2名 学校図書室休日開室人件費
通信費	120,000円	228,992円	当プロジェクト該当分(全通信費の25%)
子ども文庫プロジェクト 計	2,023,200円	2,318,804円	

●講師派遣プロジェクト

1,304,400円	0円	CCC専門家派遣プロジェクトと兼ね実施
------------	----	---------------------

●その他

頒布品仕入	0円	191,230円	絵はがき・布製品等
スタディツアー経費	0円	2,554,904円	20名参加8月1-10日実施
その他 計	0円	2,746,134円	

2. 会の運営(プロジェクト管理)

<東京事務所経費>

事務所家賃	360,000円	480,000円	水道光熱費含む
通信費	300,000円	109,556円	国内外電話 郵便代(プロジェクト該当分を除く)
運搬費	50,000円	65,948円	図書・写真パネル・ラオスへの物資等輸送
事務費・記録費	100,000円	215,687円	文房具・コピー代・写真プリント代等
広報費	500,000円	713,996円	ニュースレター発行、パンフレット印刷、封筒
人件費	1,800,000円	2,525,881円	有給スタッフ給与・通勤手当・アルバイト交通費
法定福利費	0円	17,131円	有給スタッフの労働保険料
交通費	350,000円	30,290円	国内 外出交通費
備品・消耗品費	50,000円	117,906円	パソコン部品消耗品等
備品購入費	0円	234,444円	パソコン1台
イベント経費	200,000円	180,827円	お正月パーティ材料代・勉強会経費
諸会費	0円	55,000円	JANIC団体会員費等
貸借料	0円	60,606円	コピー機リース料
出張費	0円	83,861円	プロジェクト調整のためのスタッフ出張雑費
会議・交際費	0円	9,231円	お礼等
雑費	100,000円	59,419円	パソコン資料・送金手数料・教育研修
東京事務所経費 計	3,810,000円	4,959,783円	

<ラオス事務所経費>

事務所家賃	172,800円	165,060円	事務所スペース分
水道光熱費	7,200円	37,007円	電気料・水道料・飲料水等
通信費	120,000円	119,437円	国内外電話 郵便代(プロジェクト該当分を除く)
事務費・記録費	108,000円	119,086円	文房具・コピー代・写真プリント代等
人件費	360,000円	283,459円	現地事務所責任者
福利厚生費	0円	8,344円	
交通費	43,200円	48,878円	バイクガソリン代
備品・消耗品費	36,000円	56,684円	パソコン消耗品等
修繕費	0円	30,255円	旧事務所復旧修理費
送金受取手数料	0円	167,573円	
雑費	14,400円	4,230円	
ラオス事務所経費 計	753,600円	1,044,544円	

<その他>

予備費	530,231円	0円
-----	----------	----

□支出合計 27,933,431円 26,523,255円

□当期収支差額 -3,083,897円

□次期繰越金 0円 3,220,596円 プロジェクト未払い分・前払い分を含む

# 1998年 活動計画

98年は昨年度の方針を受け継ぎ、プロジェクトの拡大や新規事業をせず、原点にかえって出版事業に力を入れるという方針で合意しました。

## <出版プロジェクト>

### ◆『絵とき辞書』第4版

全ての学校に配布するのが目標です。すでに10,000冊を印刷、1校2冊ずつ県単位で配布し、全体の約3分の2を完了。昨年夏より個人の指定寄付も多く寄せられており、本年前半に第4版として一部改訂し、2,000部を出版する計画です。

### ◆『文字絵本』続編

『文字絵本1・2』には載らなかった文字で続編を作りたいという要請があり、前回の作者やこれまでの絵本制作セミナー参加者を集め、編集作業に入る予定です。

### ◆古典図書出版

子どもたちに高い人気のあるのが、会がこれまで古典図書として出版してきた『カムパーキーフト』などの昔話です。また、大学生や大人向けの『ラオス語の歴史』などの専門書も高い評価を得ています。質の高いラオス語図書が必要とされている今、古典図書出版事業は大変重要な意味を持ち、本年は最低2種類出版を目標としています。

### ◆創作絵本出版

セミナーの成果が、当会に出版依頼の原稿を持ち込む作家が増えています。小学校低学年向け絵本の出版はわずかであり、作家の創作意欲をなくさないためにも、本年は2種の創作絵本の出版を計画しています。また、黒柳徹子さんの『窓際のトットちゃん』をラオス語に翻訳し出版したいとの要請が現地よりあり、検討中です。

## <移動図書館 図書袋>

ラオス国立図書館が中心に行う「読書推進運動」移動図書館プロジェクトは評判が広まり、いくつかのNGOが移動図書館を製作しています。しかし全国各地の小学校に、セミナーとともに配布しているのは、当会を含めて2団体だけです。

調査では、セミナーを行わなかったり、短縮した地域では、学校により利用状態がよくありませ

ん。このことから、そのため、本年度は、より充実した配布セミナーを計画しています。

これまでに配布した図書館、図書袋の周辺地域からは多くの配布要請が来ています。とくに図書袋は、トラックの行きづらい山間部にも容易に運べることから、地方山間部の学校からの配布の要請が多く寄せられています。

図書袋は材料の布が値上がりし、制作費にお金がかかること、図書を詰める作業を全て自分たちの手で行わなければならないので(図書館は国立図書館で行う)、手間がかかるのが悩みの種です。また、広げて壁に掛ける時、より利用しやすいように改良する必要もあります。

上記の点を改善しつつ、本年も昨年同様、図書館は70セット、図書袋は120セット60校への配布と、3か所での配布セミナーを計画しています。

## <子ども文化センター (CCC) >

ルアンパバンでも活動が開始。今年度は活動基盤づくりのため、図書の補充と、人気の音楽教室を充実させるために楽器購入を予算化しました。また、全国のCCCが集う、フェスティバルの開催支援を予定しています。

### ◆ヴィエンチャンCCC

建物の全面改修の申し出が家主からあり、2月までの移転を余儀なくされました。当面は会事務所で活動。今後どうするのか、情報文化省の意見も聞き、急速に結論を出さなくてははいけません。一方、ヴィエンチャン市教育委員会より市独自のCCCの建設要請があり、対応を協議しています。

### ◆ポリカムサイCCC

夏には周辺地域(県内各地)の子どもたちが集まり活動をするので、椅子と机を補充する計画です。子どもたちの両親など地域住民を巻き込み、さらに充実した活動をしていくよう依頼するとともに、本年も継続して活動費の支援を行います。

### ◆サヤブリCCC

もっとも安定した活動をしているCCCです。ところがヴィエンチャンからの連絡がとりにくいのもサヤブリ。今年は電話取付の支援を行う予定です。熱心なスタッフの活動を今年も積極的に支

えていきたいと考えています。

#### ◆ルアンパバーンCCC

98年1月15日にオープン。担当責任者は文学の専門家で、昨年11月にサヤプリCCCで研修を受け、運営、活動のノウハウを学びました。意欲的な担当者のもと、機織り、竹細工、伝統音楽、絵画などのプログラムを行います。

#### <子ども文庫 学校図書室>

##### ◆子ども文庫

昨年12月に子ども文庫の本部であるヴィエンチャン事務所文庫の改修が終わり、明るく、スペースを広く有効に使えるようになりました。新たに設けたセミナースペースを紙芝居制作の拠点として、これまでのセミナー参加者が自由に来て作品を作れるよう、ラオス人自身による紙芝居普及への支援を計画しています。また、文庫スタッフを学校図書室、CCCなどに派遣し、子どもたちとの接し方などのノウハウを伝えていきます。

##### ◆学校図書室整備

停滞気味の図書室が一部見受けられましたが、担当者の突然の異動が主な原因でした。各地区の教育委員会と連絡をとり、しっかり引き継ぎができるよう提案していきます。より安定した活動のため、専従の司書の設置を教育委員会に依頼しようと考えています。さらに、担当者向けにワークショップを開催し、効果的な運営を図る計画です。本年も新規開設は4校とし、これまで開設した図書室の活動を充実させ、周辺地域の図書室活動の中心となるよう発展させていきます。

#### ■会の運営

##### <東京事務所>

若いボランティアが継続的・意欲的に参加できる「場」の確保が必要になってきました。そこで、土曜日に事務所を開くことも検討します。実務の上でも、ボランティアが責任を持つ部分を増やしたいと考えています。常勤スタッフとしては初夏から、現在広告代理店に勤務している小川直美が常勤スタッフとして勤務する予定です。彼女はコピーライターとしての専門性を活かし、これまでの会にはなかった新しいキャラクターをもたらすことが期待されています（通信10号に封入した

「特集寄付のいろいろ」は彼女の作です）。

昨年開催したスタディーツアーは、ボランティアを増やす点でも成果を上げることができました。今年は昨年の参加者からスタッフを募り、スタディーツアーを企画していきます。

今年の会の新しい方針として、現地活動を担ってくれる専門ボランティアの募集があります。これまでも、様々な専門家にご協力をいただきましたが、現地活動の質をより高いものとするために、若手の人材に絵画指導、音楽指導、保育活動などの分野で、中長期の滞在型のボランティアを担ってほしいと考えています。

日本を含むアジア地域での経済不況は、東京事務所の財源確保の問題にとどまらず、物価の高騰により現地プロジェクトの遂行にも影響を与えています。そのため、今年もこれまでにまして、より広い方々からの会の活動へのご支援を募る必要があります。昨年暮れに出した「ラオスの子ども通信」に封入したチラシ「寄付のいろいろ」は、募金の趣旨をわかりやすく紹介することができ、これまでになくご寄付がまとまりました。今後も活動を理解していただくため、情報発信をより充実させていきたいと考えています。

また、最近さまざまな企業からご支援が増加していることもあり、NPO法案に対しても議論を深めていく必要があります。

##### <ラオス事務所>

現地のマネージャー候補採用を1名を仮採用し、4月から本採用。また、ヴィエンチャンから離れた地域の活動把握ができるよう、ルアンパバーンに非常勤スタッフあるいはアドバイザーを依頼する検討をします。さらに、CCCの活動をフォロー、アドバイスする専任の人材を確保する必要もありそうです。

活動範囲が広まるにつれ、質の向上を図るため、現地スタッフの能力向上は重要なテーマです。現在のスタッフはこの2年ほど経験をつみ、意欲も責任感も高くなりましたが、さらに英語能力の向上など、支援する必要があると考えています。

活動の効率を上げるため、現地で他NGOや関係省庁との連携が必要です。今年はネットワーク作りの努力をしていきたいと考えています。

# 日がな一日、田植えをながめて。

赤井信興

うだるような暑さのバンコクの空港を飛び立ち  
ヴィエンチャン空港に降りたって懐かしさを感じ  
た。その爽やかな風の出迎えに。信州佐久の工場  
に勤務の頃、ムンムンする暑い上野駅を降り小諸  
駅に戻りホームに降り立つと、サーッと高原の涼  
風を受けてホッとしたのを思い出したからだ。

それから約1か月、ヴィエンチャンに滞在した。

翌朝、早起きをして托鉢を見た。緋色の僧衣を  
着て黙々と歩く僧侶に、信仰厚い市民が寄進して  
いた。ラオスの人々の信心深い真摯な姿に感動。  
その後しばしば早起きをして托鉢を見てたが、  
時々子どもたちが母親や祖母の手伝いをしている  
のを見た。その素直で柔和な目が印象的だった。

市内をよく散歩した。正確にはよくお寺回りを  
した。由緒ある立派な寺院が沢山あるのに驚いた。  
同じ社会主義国(であった)モンゴルは、革命時に  
約700あった寺院が殆ど破壊され、約10万人の僧  
侶の内、2万人が粛清され、残りの人々は還俗さ  
せられたとのこと。ラオスとは大違いである。国  
民性ゆえであろうか。

また、寺院の境内では僧侶が外国からの観光客  
(含日本人)と、英語で話している姿をしばしば見  
かけた。中には本を開いて議論(?)している人も  
いた。寺で英語を学習しているとのこと。露語で  
はなく英語であることに驚きと、その重要性を感  
じつつ、僧侶のもう一つの役割を知った。

ASPBの子ども文庫を覗いてみると、満員の大  
盛況である。バンオーンさんを車座に囲んで絵本  
を読んでもらっている子どもたち、脇目もふらず  
熱心に絵を描いている子ども、別のところではゴ  
ム飛びをしている子もいた。カオさんは、本の貸  
し出しや返却のチェック、文庫入会者の手続きに

忙しそうだ。

みんな澆刺としていて目が輝いている。何より  
明るくのびのびと楽しそう。この子ども文庫は  
余程の魅力があるのだろう。休日うっかり玄関を  
開けたままにしておく、開館していると思って  
入って来る子もいた。

また、小さな子どもばかりと思っていたら、中  
学生、高校生も来て静かに本を読んでいる。聞け  
ば小学校時代に来ていた生徒だという。後日よく  
見ていると、高校生の中には書類の整理などを手  
伝っている生徒もいた。中学生や高校生にとって  
は、この文庫は心のふるさとになりつつあるので  
はなかるうか。この文庫を続けてきた歴史の重み  
を実感し、将来への広がりを感じた。

ある時、近くの小学校に行ってみた。児童の机  
の上には教科書やノートはなかった。先生が黒板  
に書くのを熱心に見ている。指名された数人が黒  
板の所に行き何か書いている。それを見ながら先  
生が話をしている。

驚いたことに校門のところに数軒の食べ物の屋  
台があり、学校の行き帰りに児童が買って食べて  
いる。聞けば先生が屋台をやることもあるとのこ  
と。先生の給料だけでは生活できないので、とい  
うのだ。二重の驚きである。これもラオスの現実  
であろう。

自転車で郊外に出てみると、田植えの最中であ  
った。苗代で苗を取る人、根の泥を洗い落とす人、  
運ぶ人、田に放り投げていく人、その苗を拾って  
植えていく人、1枚の田に5~10人が並んで植え  
ている。まさに、30年前の日本の田園風景その  
ものであった。

植え終わったあとを見て、その密植に驚いた。  
1平方メートルに30株近い。因みに日本は約20株

である。米作りは土づくり苗づくりからという。米の種類の違いがあるが、さてラオスの米の苗にはどのような植え方が最適なのであろうか。

ある日、ヴィエンチャンの北約40キロにある農場に行き、おいしい穫れたてのバナナやタマリンドを食べながら、半日をのんびりと過ごした。農場の川沿いには立派な竹林があり、その陰で休んでいると涼しくて気持ちがよい。ふと見ると人の背丈ほどの竹が5、6本まとまって生えている。よく見ると異様である。節と節の間が短く且つ節の部分には凹凸がある。聞けば、日本の竹を持ってきて植えたのだという。おそらく気候のショックを受けて、正常に育たなかったのであろう。その土地の気候風土は無視してはならないと思う。

さて、帰る日が近づくにつれて事務所の改修工事も完成に近づいてきた。改装後の子ども文庫は広くて非常に明るい。小さな子どもが座って絵本を読む板張りの床も出来た。大通りから見ると日本の格子戸風で、近隣の画一的なシャッターとは

異なり、ひときわ輝いて見える。舞台はできた。役者（現地スタッフ）は育ちつつある。観客の層も広がってきた。あとはどのような脚本でどのように演出するか。これからこそ真の本番ではなかろうか。

帰途、空港で来たときと同じように爽やかな風を頬に受けた。そして心も爽やかになってタラップを上った。

水平線もたぬこの国  
夕づけばメコンに神秘の  
反射光(かえりび)かがやく

赤井信興

赤井信興さんは、会スタッフ赤井朱子のお父さんです。東京では、赤井が事務所に出勤するのを、孫の紗季ちゃんに見送ります。「孫の世話が、私の会へのボランティアです」と話すお父さんです。

### 東京事務所の動き (97.11~98.3)

- 11月 5日 大田区ボランティア貯金推進協会総会
- 9日 定例ミーティング
- 14日 JANIC NGO事務局長交流会
- 第2回ラオスで活動するNGOの集い
- 12月14日 会忘年会
- 1月11日 定例ミーティング
- 16日 アーユス新年会
- 日本フィランソロビー協会例会
- 2月 4日 地球環境基金海外派遣研修ラオス視察コース同行
- 8日 定例ミーティング
- 24日 沖電気にて活動報告
- 27日 キックマン料理教室
- 3月 8日 定例ミーティング
- 15日 国際ふるさとフェスタin SAYAMA
- 18日 伊藤忠記念財団子ども文庫助成金贈呈式

定例ミーティングは、第2日曜日午後1時から。どなたでもどうぞ(あらかじめご連絡ください)。\*8月に限り、右記の総会と同時に行います。

### お知らせ

#### ◆97年度総会を開催します

日時：8月16日(日)午後1時から  
会場：西馬込駅前「ライフコミュニティ西馬込」

#### ◆夏のごあいさつに絵はがきをどうぞ

「ラオスの織物」2種 各6枚組:500円  
「ラオスの子どもと風景」5枚組:400円  
絵はがきの収益金は、会の活動資金として活用させていただきます。

#### ◆テレホンカード収集はお休みします

これまでご協力いただきましたテレホンカードの回収は休止いたします。どうもありがとうございました。